

意思決定会計

意思決定会計のタイプ

- 差額原価収益分析

業務的意思決定を対象とし、代替案で異なる原価・収益を比較する。

(例) 価格設定、内製か購買か、特別注文の受諾など

- 投資の経済性分析

資本投資を伴うプロジェクトを評価(Valuation)する。

(例) 設備投資、M&A

差額原価収益分析

- **総額法**

各代替案の差額原価を計算し、その結果を比較する。

- **増分法（差額法）**

1つの代替案をベースとして、もう1つの代替案の差額を計算する。代替案が3つ以上あると計算が複雑になる。

差額原価収益分析で用いる原価概念

- 埋没原価 (Sunk Cost)
- 機会原価 (Opportunity Cost)
- 差額原価 = 未来支出原価 + 機会原価

投資の経済性分析

- 資本投資を伴うプロジェクトを評価 (Valuation)
- 例として、設備投資、M&A
- いろいろな評価方法

DCF (Discounted Cash Flow)法

- 将来Cash Flowの現在価値 (Present Value, PV)を求める
- PVが投資額を上回れば、投資する

PVの算定

$$PV = \frac{\text{将来のNet Cash Flowの合計}}{(1 + \text{割引率})^{\text{年数}}}$$

Net Cash Flowの算定

売上(収益)

現金支出費用

減価償却費

営業利益

法人税

税引後営業利益

減価償却費

NCF

割引率 (Discount Rate)

- 割引率には、WACC (Weighted Average Capital Cost、加重平均資本コスト)を用いる
- 資金提供者は資金提供に対するリターンがないと資金を提供してくれないので、企業が資金調達するためには資金提供者にリターンを支払わなければならない
- 資金提供者に対するリターンが資本コスト

- 負債の資本コスト

- 負債(借入など)で資金を調達した場合の支払利息の利率
- リスク・フリー・レート

- 株主資本コスト

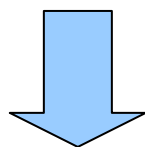
- 株式発行による資金調達の場合、株主が期待する利回り(配当+株価の値上がり)
- 株主はリスクを負担するので、株主資本コストはリスク・フリー・レートよりも高くなる

WACC

$$\text{WACC} = \text{負債コスト} \times \frac{\text{負債}}{\text{負債} + \text{資本}} +$$
$$\text{株主資本コスト} \times \frac{\text{資本}}{\text{負債} + \text{資本}}$$

DCF法の限界（問題点）

- 将来CFの算定に恣意性がある
- リスクをWACCに組み入れる



こういう限界を克服する手法が開発され、実務では用いられている

（例）リアル・オプション